



バラの剪定

Q. バラの剪定の時期、方法を教えてください。

A. 剪定の適期は1月下旬から2月下旬、ハイブリッド・ティー種は深め、フロリバンダ種は浅めに剪定します。

《ポイント》

剪定は株を小さくするとともに枝数を減らし、新しい枝を出させ、株を若返らせるために行います。株が休眠している1月下旬から2月下旬が適期です。

【方法】

(1) 高さ

ハイブリッド・ティー種は株の高さの1/4ないし1/3、フロリバンダ種は1/2くらいに切りつめます。

(2) 手順

- ① 不要枝を取り除く：枯れた枝、病虫害を受けた枝、弱い枝を除く。
- ② 込んでいる部分を整理する：枝が密についているところをすかして整理する。
- ③ 高さを調整する：だいたい1/2に切り、その後目的の高さに切りつめる。
- ④ 株もとの古い枝の調整：枝数の多い株は古枝を切り、新芽を出させる。
- ⑤ バランスの調整：枝が片側に集まっているときは、枝の間隔を均等に調整する。

(3) 枝の切り方

- ① 充実した枝を残す：木質部が発達した髓の小さい枝を残す。
- ② よい芽の上で切る：横幅が広くぷっくりしていて、周囲が赤みを帯びた芽の上で切る。
- ③ 外芽の上で切る：枝は外側に向かって伸び、バランスのよい株姿になる。
内芽の上で切ると、枝は株の中心に向かって伸び、枝が込み合う。



図-1 種別の高さ

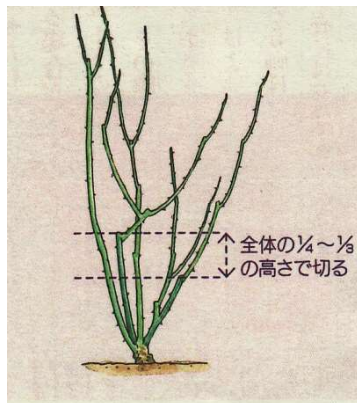


図-2 HT種の高さ



図-3 剪定終了



洋ラン購入のチェックポイント

Q. 洋ランは種類が多く、花が咲いていてもラベルは横文字でよく分かりません。

初めて株を購入する時の注意点をご教示下さい。

A. 以下の3点を注意してチェックして下さい。

1. なるべく花のついた株から始めます。

ランは成長が遅く、小さな苗を求めても、花が咲くまで3~4年はかかります。花や蕾のついた株から始めれば、花の開き具合や新芽の出かたなどがすぐ分かるので、早く育て方が覚えられます。

2. 売店の名や連絡先を覚えておきます。

後になって育て方を尋ねる時に便利です。

3. 持ちかえた後の置き場を考えて購入する種類を決めます。

例えば、ランを置く部屋が、冬の間、夜間から明け方にかけて20℃の室温が保てるならば、ファレノプシス、デンファレ、バンダ、アスコセンダといったものは育てやすく、逆にシンビジウムは蕾が落ちやすく、カトレアは花もちが悪くなります。デンドロビウムの多くの仲間は2年目以降、花が咲きにくいものです。後のグループは、明け方の室温が7~10℃ほどであることを好みます。こうした場所に、高温を好む前者のグループを置いても、株を傷めるばかりでうまく育ちません。



ファレノプシス



カトレア



デンドロビウム



クレマチスの植えつけ

Q. クレマチスの植え方を教えてください。

A. 2月から4月中旬の間に、深鉢に水はけのよい土で植えます。

《ポイント》

始めてクレマチスを育てる場合は3年生の株が最適で、育てやすく今年から花が咲きます。

1. 用土

赤玉土(小～中粒)：鹿沼土(中粒)：完熟腐葉土＝4：3：3。

この用土に緩効性化成肥料を土1リットル当り3g加える。

2. 苗の準備 (図-1)

- ① つるの整理：2年生苗は先の弱い部分を切り取る。
3年生苗は株の2/3を残してよい芽の上で切る。
1年生苗はそのままでよい。
- ② 根の処理：1、2年生苗は根を水洗する(根の健康状態を確認し、根の生育に適した土に植えるため)。
3年生苗はピートモス主体の土に植えられていなければ水洗いしなくてよい(ピートモスは日本での栽培に適さない)。

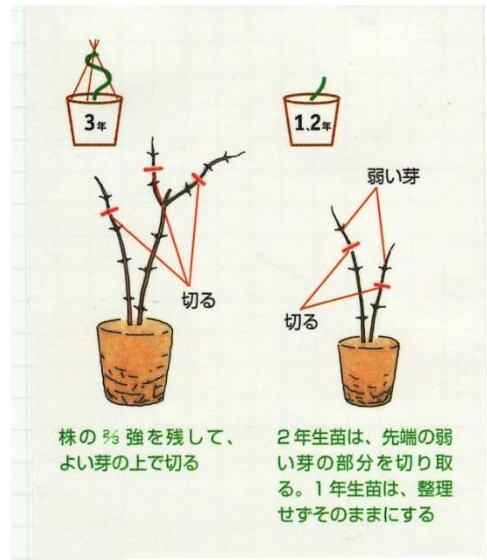


図-1 つるの整理

3. 植えつけ (図-2)

- ① 深鉢の底にゴロ土を敷き、少し土を入れて根を広げて植える。1節以上を土の中に埋める。なお、このときに支柱を立てておく。
- ② つるを支柱に留め、微塵がすべて流れでるまで水やりを繰り返す。

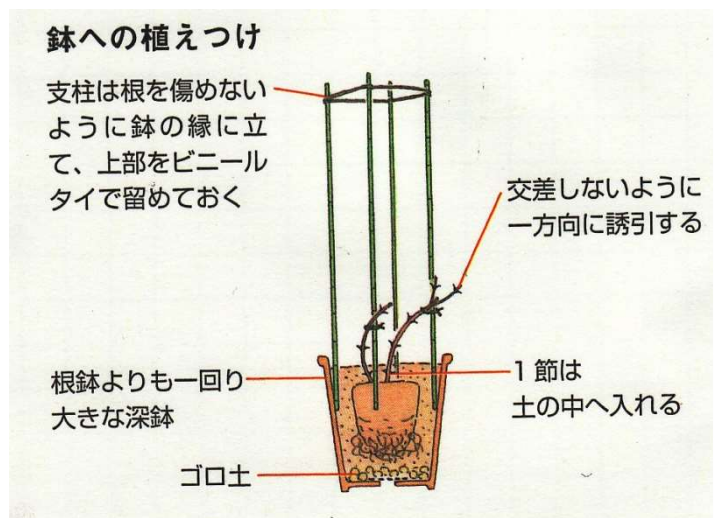


図-2 鉢への植えつけ